

(別紙様式3)

令和2年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	神奈川県横浜市中区日本大通 33
管理機関名	神奈川県教育委員会
代表者名	教育長 桐谷 次郎

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年5月29日～ 令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名	神奈川県立山北高等学校
学校長名	藤田 正樹
類型	地域魅力化型

3 研究開発名

未病・防災～高齢者比率約4割の町で高校生が挑む少子高齢化

4 研究開発概要

教育課程の中心に「総合的な探究の時間」を据え、地域課題に係る問題解決学習に取り組む。探究の手法を学び、その手法を用いてコンソーシアムの協力を得ながら地域課題を探究し、検討した課題解決方法を自治体に提案、実現を目指すことにより、地域人材の育成を図る。また、学校設定教科・科目を設置し、外部機関との連携を図る教育を展開する。

5 教育課程の特例の活用の有無 無

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域協働学習実施支援員関連		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
運営指導委員会関連								○		○		

(2) 実績の説明

① 管理機関による事業の管理

- 担当、指導主事が随時学校訪問し、取組状況を把握するとともに、常時管理職と情報共有。

(ア) コンソーシアムの構成団体（協定文書等、締結状況）

山北町 国立教育政策研究所 有限会社小田原ドライビングスクール
株式会社ベネッセコーポレーション

山北町観光協会・山北町商工会・山北町都市農村交流活性化推進協議会・ゆいスポーツ
クラブ・南足柄みらい創りカレッジ・アサヒ飲料株式会社（協定未締結／事実上協力
関係、協定書調整中）

(イ) カリキュラム開発等専門家の配置

- ・ 探究的な学習活動の目的や取組み方法について教員研修を実施。
- ・ 授業参観に基づき単元による学習活動の展開への指導・助言を実施。
- ・ 事業進捗状況の監修。各教科の情報共有を進め、教科横断的な授業展開計画を学校全体の取組としての体系化に向けてプロジェクト推進会議で協議。
- ・ 本年度事業実施状況の総括指導及び次年度事業計画への助言をもとに、各教科で、探究的な学びを教科横断的に学習するための「教科横断的な授業展開計画表」を作成。

(ウ) 地域協働学習実施支援員の配置

- ・ 山北町に依頼し、2名選出。（山北町社会教育指導員 加藤陽一郎氏、山北町農業委員 高杉光男氏に委嘱（5月29日））
- ・ 校内の企画及び学年会議、コンソーシアム連絡会議（12月20日）等に参加。外部人材、団体（学校関係・地域住民関係）の活用に向けて調整。
- ・ 随時、学校又は町役場にて学校と外部団体とのフィールドワークについて打合せ。（学校での打合せの際は授業に参加し、生徒の取組状況を観察）

② 管理機関による主体的な取組

- ・ 県教育委員会として、学校と知事部局関係課との連携に当たって、関係課との情報共有、調整、連携、また、山北町との連携に関する事務的調整等を行った。
- ・ 地域協働学習実施支援員の謝金予算を配当。
- ・ 事業に係る定数加配により令和元年度は非常勤職員（25時間／週）を配置。令和2年度には1名、定数加配の予定。
- ・ 会計処理や校内整備、校外各団体との連絡調整を担当する非常勤職員1名（29時間）を事務業務支援員として配置。

③ 事業終了後の自走を見据えた取組

- 県教育委員会として引き続き支援体制を継続し、指導主事による訪問を含め、教育課程

の不断の改善に向けた指導・助言を継続するとともに、「県立高校地域協働活動支援事業」により必要な支援を行う。

- 学校設定科目「未病」、「地域防災」に関する生徒の授業、探究活動を支える本県担当部署及び企業に説明と連絡・調整を行い、資料等の提供、VRによる認知症体験などの支援を受ける。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」の活用		1回	2回	2回	1回	3回	2回	3回	1回	3回		
コンソーシアムにおける研究開発				1回		1回	1回	1回	2回	1回		
研究成果報告・事業成果の作成及び検証		1回						1回				
専門家等アドバイザーとの協働によるカリキュラム開発		1回	1回	2回			1回	2回	2回	1回		

(2) 実績の説明

【研究開発の内容・地域課題の研究】

《類型毎の趣旨に応じた取組》

「地域魅力化型」は、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組として、地域における地域ならではの新しい価値の創造に向け、地域をよく知りコミュニティを支える人材育成を行うものであり、本校においては、神奈川県総合計画である「かながわグランドデザイン」における県西地域圏の「災害に強いまちづくり」や、県の個別計画「県西地域活性化プロジェクト」における未病の取組を踏まえ、県政策局とも連携しながら、「未病」「防災」の学びを通じ、高齢者比率4割の山北町の課題解決に取り組む。研究初年度は、対象となる1年生に対し、研究の基本となる山北町の現状理解と課題発見につなげる学習を行った。

《教育課程》

1年目は、「総合的な探究の時間（未来探究）」を中心に、2年次における生徒一人ひとりの探究テーマの設定に向けた準備段階と位置付け、PBLを実践するにあたって必要となる基本的スキルを学ぶ取組を行った。具体的には、山北町を知るためのフィールドワーク、「未病」「防災」に関わるPBLスキルを活用した「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程に基づく活動を行った。この際、各生徒の学習状況を見取る中で、関連する各教科・科目の担当教員が指導助言を行い、様々な教科との関連性の中で学びが展開されていることを生徒が意識できるようにした。（2学年で生徒が探究テーマを決定することにより、本格的にこの教科横断的な活動に継続的に取り組んでいくことになる。）

これを基に、2年目、教育課程上2学年に位置付けた学校設定科目「山北」「未病」「地域

防災」から生徒が選択し、専門的な学びを行うとともに、「総合的な探究の時間（未来探究）」と結びつけ、探究テーマの設定及び生徒一人ひとりの探究活動を行う。

《地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とする取組について》

「総合的な探究の時間（未来探究）」（以下、未来探究）をベースとした地域との協働事業を進めていく中で、教育課程上2学年に位置付けた学校設定科目「山北」「未病」「地域防災」は、全教職員の意識において、それぞれの授業や学校行事で得た学びが教科等の枠で切り離されるものではなく、生徒の中で相互に関連し合いつながっている、という教科横断的な学びの視点をポジティブにするという点で非常に大きな効果をもたらした。指導者が、「探究的な学びとして何ができるようになるか」という視点で教科等相互の連携を図り、関係性を深めながら教育活動を実践した。

生徒の資質・能力を育成するための手立てとして、「未来探究」を中心とした地域に関する教育を推進しているが、未病学習では「保健」「家庭基礎」、防災学習では「現代社会」「数学Ⅰ」等と関連させた指導が行われた。また、地域防災の拠点として本校を会場に地域合同防災訓練を実施。地域の方々と防災用非常食を作り、防災講演会を実施するなど、多様な視点から交流を深める学習活動とした。

《総合的な探究の時間（未来探究）の取組》

- 宿泊オリエンテーションの実施。（4月18日～19日）
- SDGsを探究活動の視点とし、課題の気付きと思考の深まりをねらいとする。
 - ・ 生徒にSDGsを身近なものとして実感させ、探究活動の視点の醸成を図るため、校内にSDGsコーナーの設置、調べ学習の成果の廊下掲示等、学習環境を整備。
 - ・ 町内企業である合資会社川西屋酒造店の協力により、フードロス解消に向けた取組について講演実施。（7月10日）
- 山北町を知るフィールドワーク（7月～11月）
 - ・ 夏季休業中に「身近なもったいないを考える」をテーマに、グループ学習を実施、夏季休業明けにレポート提出、ポスターセッションにて発表後、山北町都市農村交流活性化推進協議会の協力の下、竹林整備体験、林業体験、史跡巡検、商店街探訪のコース別にフィールドワークを実施するとともに、「気づいたこと・興味を持ったこと」「山北町の魅力」「山北町の課題」「課題の解決策」の4項目についての学習成果をポートフォリオ課題として配信、回収。
- 未病学習について（10月23日～12月12日）
 - ・ アサヒ飲料株式会社・カタパルト株式会社のファシリテートにより、プロジェクト学習「僕らの未病プロジェクト」を展開。「未病を同世代に広報する」というテーマで、県副知事による基調講演を受け、グループワークにより広報課題を作成、成果発表会を実施。
- 防災学習について（1月9日～2月6日）
 - ・ 町職員による台風19号の被害状況及び災害復旧対応について講演及び、東北の食材を使って東北支援を行う「きっかけ食堂」代表武田氏による被災者支援について講義。
 - ・ 「立体地図を活用するDIG」「防災・減災」「被災者支援」の3グループでPBLを実施。生徒が率先して地域住民の助けとなり、本校が地域の防災拠点となるために何が必要かを考えた。
- MYプロジェクト設定

- ・ 未来探究の中で今年度の学習を踏まえ、生徒一人ひとりが令和2年度中に課題をMYプロジェクトに設定する予定。
- 次年度に向けて、探究的な学びを教科横断的に学習するため、年間指導計画の見直しを行った。具体的には、教科横断的な計画表を作成することで、指導者が視覚的に関連する分野を結び付けることができた。
 - ・ 未病学習では「保健」の中の、生活環境・心身相関・運動と健康、「家庭基礎」の中の、高齢者と関わる・衣食住を作る等で関連させた指導が行われた。また、防災学習では「現代社会」の中の、防災と社会貢献、「数学Ⅰ」の中のデータの分析等と関連させた指導が行われた。

《推進体制》

- ① 探究的な学びのためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
 - 今年度は、1学年の総合的な探究の時間の展開をベースに、2学年以降のPBLに向けた基本的スキルの習得が目的であったことから、教科横断的な学習活動や生徒一人ひとりの探究活動の支援などについては、学年及び教科担任等による限定的な人員での対応となった。今年度の検証を踏まえ、令和2年度の1・2学年による学習展開にあわせた全職員での対応体制を再構築する予定。
- ② 研究開発体制
 - 校内体制
 - ・ 1学年教職員対象の検討会議及び連携推進グループと1学年合同のプロジェクト推進会議（週1回程度）を実施。（月1回程度カリキュラム開発等専門家が参加）
 - ・ 学校運営協議会にて研究開発の方針について承認を得た。
 - 研究開発に係る地域との会議
 - ・ コンソーシアム連絡会議において、本校との協働のあり方について協議。（12月13日）
- ③ 外部人材の校内での位置付け
 - カリキュラム開発等専門家は、今年度、職員研修や教育活動についての指導助言、全体の進行状況を監修、「教科横断的な授業展開計画表」の作成につなげた。来年度は、今年度の生徒の変容を見極め、地域の将来を考えながら学校とカリキュラム開発等専門家との協働による新しいカリキュラムを構築する。
 - 地域協働学習実施支援員は、今年度は教員全体による地域との調整の補助的立場に留まった。来年度は、地域の要望と学校の指導計画をすり合わせながら、地域との連携強化に取り組む。
- ④ 学校長の進捗管理、計画、方法を改善していく仕組み
 - 週1回程度のプロジェクト推進会議における振り返りと方向性の確認を行い、次時の授業の到達度や授業内容の改善に取り組んだ。
 - 管理職及び総括教諭（主幹教諭）からなる企画会議で計画の修正を検討し、プロジェクト推進会議へフィードバック。
 - 上記会議による日常的な振り返りや改善を行うとともに、学校運営協議会や運営指導委員会での協議を踏まえた全体的な視点からの見直しを組み合わせたサイクルの中で、進捗管理を行った。
- ⑤ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組

- 「地域防災」におけるドローン活用に向けて、有限会社小田原ドライビングスクールの協力の下、教員 14 名がドローンに関する法律、操縦等について講習を受講。（11 月 25 日～12 月 25 日）
- (株)ベネッセコーポレーションによる探究活動に係る教員研修を実施。（1 月 24 日、1 月 31 日）
- 県政策局 SDGs 推進課との協働により、SDGs に係る取組について県立学校で活用できる教材を作成中。
- ⑥ 運営指導委員会等、指導助言等に関する専門家からの支援
 - 運営指導委員として、早稲田大学教職大学院客員教授羽入田眞一氏、山北町教育長石田浩二氏、OECD 日本イノベーションネットワーク事務局長小村俊平氏に委嘱。（7 月 25 日）
 - 第 1 回「本年度の活動及び後期の活動計画について」（11 月 19 日）
第 2 回「本年度の活動及び後期の活動計画について」（1 月 31 日）
 - ・ 学習に当たって、全体と自分とのつながり、チームにどう貢献できるかを意識させ、表彰などにより生徒に光を当てる工夫をすること、様々な学校行事にも一貫性を持たせて探究活動につなげること、探究活動を行う際に進路をつなげること、地域の人を巻き込むための一層の工夫が必要であること等、多様な意見をいただいている。

《研究成果報告・事業成果の作成及び検証》

- 令和元年度の取組についての報告書冊子を作成。
- 検証については校内アンケート及び三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社による指定校対象アンケートをもとに行う。

《研究開発成果発表会の実施》

- 探究活動の発表会は 2 回予定したが、新型コロナウイルスの影響により 1 回となった。「僕らの未病プロジェクト」成果発表会は、山北町及び県政策局の協力の下に実施した。

《研究開発成果普及》

- 生徒による研究発表
 - ・ 神奈川県西部 8 県立高等学校合同での探究学習発表会（3 月 12 日）
※ 新型コロナウイルスの影響により延期、未実施
 - ・ 「僕らの未病プロジェクト」成果発表会実施（12 月 12 日）
- 職員による研究発表
 - ・ 企業主催等の「『総合的な探究の時間』の導入・実践を考える会」（11 月 15 日）、「生徒が前向きになるための「学び直し」を考える会」（11 月 15 日）、及び「首都圏学習指導等研究協議会」（11 月 23 日）において、校長及び教諭が取組について発表。
- 公開研究授業実施（6 月 27 日）
- 取材（新聞社、進学情報誌等）

8 目標の①進捗状況、②成果、③評価

目標（1）「山北高等学校を中心に、行政・町民・企業が一体となる」ことについて

① 進捗状況

- 山北町及び県（政策局、県西地域県政総合センター）、企業等との連携・協働により町

及び町民、企業の参加が得られる体制が整った。(フィールドワーク、講演会、学校行事(文化祭・防災訓練等))

② 成果

- 行政・町民・企業との連携を通じた様々な体験活動により、生徒の地域への関心が高まった。

③ 評価

- フィールドワーク等を通じて、行政・町民・企業に対して本校の地域協働への取組姿勢について示すことができた。地域から学校に対してともに取り組みたいという課題が提供されることを目指す。

目標(2)「『未病』、『防災』の二つの視点でPBLを活用した『個人の成長』を求めるカリキュラムの開発研究」について

① 進捗状況

- 2年時からの学校設定科目「未病」、「地域防災」等の学習に向けて、今年度は基礎知識の習得と町、企業と連携したPBLの展開を「未来探究」で実施。

② 成果

- 生徒アンケート及び研究テーマから「未病」、「防災」を中心とした学習活動を通じて生徒の意識や発表内容に前向きな変化がみられる。
 - ・ 「中学校の時よりも勉強を頑張った」と答えた生徒が、9%→23%と増加。SDGsの認識については、「知っている」生徒が6.5%→30.3%と増加、「知らない」生徒が43.8%→11.9%と減少。(4月と6月に1学年対象アンケート)
 - ・ 「山北町での生活を希望する生徒」:[1学年4月:14.1%→1学年2月:20.8%]
「山北町に貢献することを希望する生徒」:[1学年4月:49.7%→1学年2月:64.7%]
といずれも増加。
 - ・ 未病についてのPBLでは、発表事例として、「三食美人」(お茶ラベル)、「ME-BYO絵本」など身近なテーマにより未病を自分事として捉えた発表が数多く見られた。

③ 評価

- 町や企業、地域住民による授業参加及び異世代との対話
 - ・ 個人の成長を図るうえで異世代との交流体験は重要であるが、今年度は地域の意見等反映できる場が少なかった。異世代との交流を組み込んだ授業展開の計画が必要。

目標(3)「Uターンを含めた地域で活躍し、地域を創生する人材の育成」について

① 進捗状況

- 町の魅力や歴史について、町や協議会と協力して授業を展開した。
 - ・ 町勢要覧を生徒一人につき1冊、山北町から提供してもらい、町の現状や課題について学習し、実際に放棄竹林や放棄森林などの課題に触れたことで、マイプロジェクトへの一助となった。

② 成果

- 山北町への貢献度の向上について
 - ・ 学校で実施したアンケート結果(添付資料「目標設定シート」1.アウトカムのb参照)において、「山北町での生活を希望する生徒」(4月14.1%→2月20.8%)、「山北町に関係する就職を希望する生徒」(4月6.8%→2月18.5%)、「山北町に貢献することを希望する生徒」(4月49.7%→2月64.7%)の3項目において増加。

- ・ フィールドワーク等の活動などを通じて、町職員や町の人々と触れあう学習活動実施により、自分と地域との関わりを考えられるようになった。

③ 評価

- 山北町へのUターンを含めた地域で活躍
 - ・ 生徒の町への関心が高まったと捉えているが、今後、地域への愛着をさらに育み、生徒が実際に山北町で就職したい、起業したいと思えるようなより具体的な成果が生まれることが課題。
 - ・ 地元企業への訪問や林業、農業、酪農等の地域ならではの職業体験等の実施により、地元地域で働きたいと思える進路学習の取組が必要である。

9 次年度以降の課題及び改善点

① 地域との協働体制について

- コンソーシアムの拡大と内容の充実を図る。
 - ・ 学校の外に、学校を支援し、コンソーシアム組織を動かす仕組みを検討する。
 - ・ 次年度はカリキュラム開発専門家及び地域協働学習実施支援員をより一層活用し、コンソーシアムを組織として活かしインターンシップなどでの協力体制を整える。
 - ・ 地域協働学習実施支援員やコンソーシアム企業と連携を図り、地元企業の魅力などの情報提供を行うことで、生徒の興味、関心を向けさせ山北町内への就職者の増加を図る。
- カリキュラム開発等専門家とともに学習指導計画立案の段階から協働を進め、地域課題解決に向けた地域との一体的な取組をより一層進める。
 - ・ 学校設定教科「あしがら」、学校設定科目「未病」、「地域防災」、「山北」の学習内容の選択を校内カリキュラム検討委員会と協働で進め、次々年度の未来探究の充実につなげる。
- 地域協働学習実施支援員を一層活用し、地域の理解と協力を得る。
 - ・ 幼・保・小・中学校との連携の組織化。中学校と一体となった放課後学習支援の検討。
 - ・ 山北町及び周辺住民との交流と広報を強化する。

② PBL 型学習の指導について

- 生徒が主体的に「自分事としての課題設定」ができるように職員がファシリテートしていく必要がある。
 - ・ 職員に対する校内研修会と外部研修会への派遣。
 - ・ 地域魅力化型指定校発表会への職員の派遣。
- 地域企業や大学との連携に際して、互いにとって有効なものにする必要がある。
 - ・ 顔の見える関係構築と定期的な連絡会の開催。

③ カリキュラムの開発について

- 「未来探究」及び「山北」「未病」「地域防災」を核として、全教科での探究的な活動を用いる手法を展開するなど、指導内容、指導方法を充実する必要がある。
- 今年度を実施した内容の次年度1年への引き継ぎと、2年時における課題解決に向けた取組を効果的に進める必要がある。
- 生徒が学習体験を自分事とし、地域社会への還元など実際的な活用を図ることができるようになる必要がある。
 - ・ 本年度の反省を活かし、令和2年度の1学年「未来探究」は2単位とした。

【担当者】

担当課	高校教育課	T E L	045-210-8254
氏 名	川端 麻穂	F A X	045-210-8922
職 名	専門員	e-mail	kawabata.fp7c@pref.kanagawa